

5 音楽

(1) 第1学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

1年生の学習状況については、授業評価アンケート等から、以下のような特徴が見られた。

- ・積極的に取り組む生徒が多い。
- ・表現活動に消極的な面をもつ生徒への声掛けをするなどできる生徒がいる。
- ・興味関心をもち、音楽が楽しいと思える生徒を増やしていけるように、研鑽を重ねる。

イ 学力の状況

1年生の音楽の学力について、以下のような傾向が見られた。

- ・音楽表現の創意工夫に関して、思いや意図を音楽の要素や楽曲の構成に結び付けて感じ取ることが困難と感じられる生徒もいる。
- ・音楽表現の技能の学習に対して、自宅で復習して取り組む生徒がいる。
- ・鑑賞の能力に関する学習への取組は、提供する話題に対して意欲的な反応が多く見られ、活発な授業展開ができています。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・音楽の要素や楽曲の構造の知識的理解を深め、思いや意図につながる根拠として積極的に感じ取れる力を身に付ける。
- ・表現に関する基礎的な知識や読譜力等を身に付けていくとともに、自宅でも復習するなど、自ら考え積極的に表現する力を身に付ける。

イ 指導面（教師の課題）

- ・パートごとでの実技練習など、グループ活動において、スモールステップを踏みながら、自宅でも復習できる表現方法を丁寧に指導し、自ら考えながら全員が目標に向かって向かう事できるように配慮しながら導く必要がある。
- ・実技が苦手な生徒への対応として、子どもたちで声かけができる雰囲気作りを常に心がけ、スモールステップから出来ることを増やし、自信をつけさせる。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・言語活動に必要な基礎的な知識や読譜力等を身に付けられるようにする。スモールステップにより、話す力、高めあう力を身に付けていく。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ホワイトボードや、スライド等での映像や道具を使って、視覚的にわかりやすい説明や活動を研鑽する。

ウ 家庭学習の定着

- ・基本的な歌声の出し方を柱に掲げ、自宅で簡単にできる方法を伝え、少しずつ基本的技能が身に付くことができるように指導する。

(2) 第2学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

2年生の学習状況については、授業評価アンケート等から、以下のような特徴が見られた。

- ・積極的に取り組む生徒が多い。
- ・歌を歌って楽しいと体感できる生徒が、増えてきたように感じ取れる。個人的に自宅で予習復習をしている生徒も増えてきた様子である。音楽が楽しいと思える生徒を増やしていけるように、方法や進め方に関して、研鑽を重ねていく。

イ 学力の状況

2年生の音楽の学力について、以下のような傾向が見られた。

- ・音楽表現の創意工夫に関して、思いや意図を音楽の要素や楽曲の構成に結び付けて感じ取ることができる力は身に付いてきたが、言葉にして表現することが難しいと思う生徒も多い。
- ・音楽表現の技能の学習に対して、目標に到達するため、積極的に自ら考え工夫して演奏しようと努力している。
- ・鑑賞の能力に関する学習への取組は、提供する話題に対して意欲的な反応をする生徒も多い。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・音楽の要素や楽曲の構造の知識的理解を深め、思いや意図につながる根拠として積極的に感じ取れる力を身に付ける。
- ・表現に関する基礎的な知識や読譜力等を身に付け、自ら考え積極的に表現する力を付ける必要がある。

イ 指導面（教師の課題）

- ・歌唱指導に関して、パートごとでの実技練習など、グループ活動を進めることが出来てきたが、1年生の時に引き続き、個人が自分自身で取り組める練習方法を指導するとともに、全員が目標に対して積極的に向かうことができるように配慮・指示をしていく。
- ・実技が苦手な生徒への対応として、子どもたちで声かけができる雰囲気作りを常に心がけ、スモールステップから出来ることを増やし、自信をつけさせる。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・言語活動に必要な基礎的な知識や読譜力等を身に付けられるようにする。スモールステップにより、話す力、高めあう力を身に付けていく。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ホワイトボードや、スライド等での映像や道具を使って、視覚的にわかりやすい説明や活動を研鑽する。

ウ 家庭学習の定着

- ・基本的な歌声の出し方など、自宅で簡単にできる方法を伝え、基本的技能が定着できるよう指導する。

(3) 第3学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

3年生の学習状況については、授業評価アンケート等から、以下のような特徴が見られた。

- ・授業を真面目に受ける生徒が多い。
- ・表現活動にも消極的な面をもつ生徒への声掛けをするなどできる生徒がいる。
- ・興味関心を持ち、音楽が楽しいと思える生徒を更に増やしていけるように、研鑽を重ねていく。

イ 学力の状況

3年生の音楽の学力について、以下のような傾向が見られた。

- ・音楽表現の創意工夫に関して、思いや意図を音楽の要素や楽曲の構成に結び付けて感じ取り、理解することができる力が身に付いてきた。
- ・音楽表現の技能の学習に対して、自ら練習に対しての工夫を考え、切磋琢磨しながら自分の声と向き合う姿勢が身につく生徒が増えてきた一方で、まだまだ心で感じた思いや意図を体で表現できない生徒も見受けられる。
- ・鑑賞の能力に関する学習への取組は、提供する話題に対して意欲的な反応が多く見られ、活発な授業展開ができています。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・音楽の要素や楽曲の構造の知識的理解を深め、思いや意図につながる根拠として積極的に感じ取り、言葉で説明できる力を身に付ける。
- ・表現に関する基礎的な知識や読譜力等を身に付け、自ら考え積極的に表現できる力を付ける必要がある。

イ 指導面（教師の課題）

- ・自宅でもできる表現の方法を指導し、自分自身で積極的に練習を重ねられるよう、教材研究を研鑽する。そして、全員が目標に向かって向かう事できるように配慮・指示をしていく。
- ・実技が苦手な生徒への対応として、子どもたちで声かけができる雰囲気作りを常に心がけ、スモールステップから出来ることを増やし、自信をつけさせる。

③ 授業改善案

ア 言語活動の取組

- ・言語活動に必要な基礎的な知識や読譜力等を身に付けられるようにする。スモールステップにより、話す力、高めあう力を身に付けていく。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ホワイトボードや、スライド等での映像や道具を使って、視覚的にわかりやすい説明や活動を研鑽する。

ウ 家庭学習の定着

- ・自宅で簡単にできる方法を伝え、基本的技能が身に付き、それを生かして積極的な表現ができるように導く。